

《12月10日発売予定!!》

多くの証拠や文献、そして現場での調査、資料分析等から、我々は、次のように結論せざるを得なかった。

- 「小沢一郎検察審査会は、開かれていなかったのではないか」
- 「検察審査会メンバーは、本当は存在しないのではないか」
- 「小沢一郎強制起訴は、『架空議決』だったのではないか」



志岐武彦
山崎行太郎

the Trap
for Ozawa

定価1,500円+税(四六判/上製本)

「検察の罠」から「最高裁の罠」へ。

「小沢事件」及び「小沢裁判」は、日本国家の多くの謎や暗部、そして闇の部分、次々と暴露してきた。東京地検特捜部の暗部、検察の暗部、検察審査会の暗部、マスコミの暗部、米国の植民地支配の暗部、などなど。日本国家の闇の部分の「悪」と「犯罪」と「病巣」とが、次々と暴露されていった。

本書が取り上げるのは、「検察の罠」の先にある「最高裁の罠」である。

最高裁の実質的な司令塔の役割を担っている「最高裁事務総局」という組織にかかわるスキャンダルである。「守秘義務」や「非公開の原則」等々によって秘密のヴェールに包まれたままの「検察審査会」や「最高裁の深い闇」。その「窓のない、黒くて、ぶ厚い石の壁」に挑んだ記録が、本書である。

ご予約注文書

志岐武彦・山崎行太郎 共著 「最高裁の罠」		●申込冊数	冊
定価1500円+税(四六判/上製本) ISBN 978-4-906674-48-0			
●お名前 (ふりがな)		●お電話番号	
●ご住所			

●「アマゾン」から、インターネットで予約注文することができます。●
※弊社に直接ご注文される方は、上記空欄にご記入いただき、この用紙をそのまま FAX(03-5211-0097)してください。送料無料でお届けいたします。

K&Kプレス TEL.03-5211-0096 FAX.03-5211-0097

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-7-3 半蔵門堀切ビル4階 Email;gekkan.nippon@gmail.com